

平成 30 年度 女性と市長との懇談会（1 回目）

懇談テーマ：「女性が地元定着するための魅力的な地域づくり（魅力発信と知名度向上）について」

平成 30 年 12 月 14 日（金） 13:30～15:30

健康福祉会館 3 階 3-1 研修室

出席者 女性 14 人（8 地区）

市長・政策推進部長・定住推進部長・女性活躍推進対策官

●市長挨拶

今日は忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

今年一年を振り返ると、災害に振り回された年でした。7月の連続豪雨では766ミリの連続雨量があり、下呂市や関市では犠牲者も出る状況でした。中津川市も同じような降水量でしたが、安全対策や治山治水が功を奏したのかと思います。全国的にも大勢の犠牲者が出ましたが、地域を襲う豪雨や台風被害に対して、しっかりと安全なまちづくりをしていかなければならないと思っています。

9月の台風21号では停電が起き、翌日の夕方まで電力が回復しない地域がありましたが、原因の大半が倒木による電線分断でした。自然環境は素晴らしいが、電線がある場所でも木が成長しすぎて、障害となってしまっています。中部電力さんなどには、必死に復旧作業をしていただきましたが、県内広いエリアでの作業となり、時間がかかりました。今年は学校の休校も多くなり、家庭の皆さんが一番大変だったのではないかと思います。教育関係でも遅れをとりもどす対策が必要で、災害がもたらす多くの課題がある年でした。

7月には猛暑が続き、学校のエアコンの問題がありました。中津川市も全小学校、中学校のそれぞれの教室は設置されていません。愛知県豊田市で子どもが亡くなられたことから、全国的に学校や、幼稚園などへの設置の必要性が叫ばれ、中津川市も国へ予算を要望しましたが、全国一斉で要請したため、当初3割と言われていた補助が1割少しくらいになってしまいました。中津川市の全校では11億円かかり、エアコンと空調の設置を、業者にも協力してもらって、急いで対応したいと決定したところです。

また、中津川市を全国に大きく発信できた年でした。NHKの朝ドラでは、まちの景観は岩村の商店街でしたが、関市、可児市、中津川市でもロケがありました。中村雅俊さんが、ロケで一番印象に残っているのは、落合地域で撮影された家族でお墓参りしたときに山を見ながら語るシーンと言われました。五平餅も有名になり、NHKと団子型五平餅の話をしましたが、口を大きく開けてガブッと食べている絵を撮りたいということでワラジ型になってしまい残念でした。2回目の落合地域のロケの際、地元の女性の皆さんが朴葉寿しを作って差し入れしたら、朴葉寿しを食べるシーンを入れていただきました。永野芽郁さんも文化ホールへ来ていただきました。

もう1点は、苗木城跡です。お城の雑誌5月号で全国のお城24位に選ばれました。その中で、絶景山城ベストランキングでは1位になりました。

若い方が定住したり、中津川へ帰って活躍する仕組みづくりに取り組んでいます。今年度の当初予算の主要施策です。12年間で4年ごとに分け、今年度は前期の最終年度です。人々が輝き、安らぐ、自然に包まれ、活気あふれた中津川を目指して、事業計画を進めています。

中津川市の人口は、平成17年の合併時は84,000人でしたが、現在は79,000人で、1日約2人減少している状況です。

若い世代の人口は、国勢調査のデータでは、平成22年から平成27年にかけて22～29歳が大きく減少しています。要因は大学進学が多いのですが、なんとか中津川に戻って魅力的な街づくりをしてほしいと思っています。その大きな柱となる若い人の支援事業として、地元回帰につながるしくみづくり、子育てしやすい・働きやすいまちづくり、移住定住につながる魅力的な地域づくりの3つの事業を進めています。

働く場所がないとは言われますが、有効求人倍率は県下でも1、2位で、倍率は高いです。今、中津川は若い人のしたい仕事が少ないことが問題です。市民協働課の行ったアンケートでは、男性の32%、女性の30%が希望する職が市内に無いと答えていますが、希望する職種が中津川市や東濃管内にあれば通勤して仕事をしたかった人も多くみられます。そのため、中津川市に無い業種・職種を中津川市で展開してもらえる企業にアプローチしています。

●女性活躍推進対策官から中津川市の女性支援施策などについて説明

定住推進部は、住んでみたい・住み続けたい地域を目指してさまざまな政策を進めています。男女共同参画も中津川市の魅力を高めるひとつの策として、女性が輝く社会の実現を目指して進めています。これは女性の権利だけを主張するのではなく、男性も女性も誰もが暮らしやすい社会を目指していきましょうということです。具体的には、家庭、地域、教育の場や、職場などそれぞれの場面で暮らしやすい社会を目指して取り組みます。

国が女性活躍推進を進めており、中津川市も色々と施策を進めています。これから活躍して欲しい若い女性が進学や就職を機に転出してしまいう現実があります。その理由は希望する職場や職種が中津川市にないということですが、それを解決する特効薬はなかなかないため、少しでも暮らしやすい、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

具体的にはワークライフバランスの取り組みとして、自分たちだけで頑張るのではなく、会社の働き方も変えるように、企業向けのシンポジウムやセミナーを開催したり、個別に訪問して理解していただけるような取り組みを進めています。岐阜県のワークライフバランス推進企業としては、市内では120社ほどが登録されており、特に優秀な会社を「エクセレント企業」として、市内で5社が認定されています。

また、結婚や出産をしても働き続けていただけるよう、育児休業中の方を対象に、セミナーや交流会を開催しており、出産や結婚などで仕事を辞められた方の再就職を支援するパソコン講習会なども開催しています。

このように、今働いている人、これから働きたい人も、自分の希望が尊重される環境づくりをしています。女性が働きやすい職場ということは、男性も働きやすいことにつながります。また、広報なかつがわに、毎月男女共同参画の記事を紹介していますのでご覧いただければと思います。活躍する女性は、起業されている方、会社で活躍されている方、地域で活躍されている方等さまざまな方がいらっしゃいますので、その方々を紹介していきたいと思っています。

女性が活躍している地域は活気があると言われていています。そういった方を応援していきたいと思っています。

懇談 中津川市の良い所や不満な所を自由にお話してください

●〇〇さん

県外に出ていましたが、いつか地元に戻ってきて自営業をしたいという思いがあり、出産を機に中津川市に戻ってきて、実家で親と同居しています。仕事をするにも子どもが小さくて働けないので、子どもをみてもらい家族に助けてもらいました。働くためには子どものお世話をしてくれる人が必要です。でも、自分のやりたいことのために、子どもを犠牲にしないことを心がけていました。

●〇〇さん

子どもが保育園なので、夏休みなど関係なく預かってもらって働いていますが、来年から上の子が小学校に上がります。私はパートなので、学童に入れるほどではありませんが、夏休みなど長期に預かってもらえるところがないので、誰かに頼る必要があります。学童以外に長期休みに預かってもらえるような場所があると良いと思います。

●〇〇さん

坂下地域など合併して中津川市に入った地域では児童館や公園がなくて、市街地へ出るにも時間がかかります。同じ中津川市なのに、不便だという話がお母さんの間でも出ています。

●〇〇さん

山口地域は幼稚園なので夏休みもあります。人が少ないため、幼稚園と小学校合同で運動会などをしたり、役員も少ない人数のなかで回ってきてしまいます。一時期、小学校が坂下と合併する話があったので、どうなったのか気になっています。

●〇〇さん

新しく何かを作ってくれという要望をしても、人数が少ない地域では無理があるかもしれませんし、今作ってしまうと今後どうなのだろうという思いもあります。近くにあると助かるとは思いますが、どうやってバランスを取るかが大切だと思っています。

別の話ですが、中津川市に若い人が行くようなお店がないので、恵那市に引っ越したといった話を聞いたことがあります。

●〇〇さん

子どもの送り迎えの親の負担が大きいです。一人で歩かせられないから、集合場所まで親が迎えにいかなければならないため、15時までしか働けません。いくら親と同居していても、親もまだ元気だから働きたいし、子どもの世話より自分の人生が不安だから働きたいと言います。だから、働きたくてもパートでしか働けないし、夏休みもあるのでパートでも難しいです。

●〇〇さん

「なんでも相談」は月1回阿木の振興センターに来てくれますが、乳幼児健診で中津地区まで出ていくのが遠かったのが、乳幼児健診も阿木まで来てくれると良いと思います。

また、阿木地域は夏と春に季節性の学童が小学校の校舎であります、季節性のものしかないので通常の学童も欲しいです。

●〇〇さん

阿木地域は自然のなかで子どもを育てるには良いところですが、学童と安全に遊べる場所がありません。クラブの遊具も撤去されて広場しかないのが、安全にみんなで遊べる場所があると良いと思います。

●〇〇さん

上の子と下の子で別の園にかけもちに通っています。他の親御さんも苦労しています。部屋数は余っていると聞くので、入れてもらえるとありがたい。人数が減ってきているので統合の話もあるが、少ない人数でも良いところはあると思います。

●〇〇さん

中津川は子育てしやすいところで、子どもをきっかけに知り合う人が多くなってありがたいです。家族の仕事の関係で他県に行った人の話を聞くと、中津川は子育て施策が充実していて良いねと言われるので、もっとアピールして欲しいと思います。目玉になる施設があると良いと思います。「ねこのて」がママ友と行きやすく良いが、拡大して就職情報などお母さんに必要な情報が得られる複合的な施設になると良いなと思っています。

●〇〇さん

苗木城跡の近くに住んでいますが、車が増えました。特に国道257号は、県外ナンバーが多くなっていますが、子どもが確実に安全に通れる地下道が1カ所あるだけで、それ以外はボタン式の信号など小学生が通学時などに渡ることが許可されている場所が決まっています。家も増えていて遊びに行く範囲が広がっているのに、遠回りして地下を通らないといけなくて、自由に友達の家にも遊びに行けません。公園も1カ所しかなく、苗木の子どもたちの安全も考えていただきたいです。

学童保育に入っていない子も、交流センターに行けると安心なのですが、学校帰りには行ってはいけないので使いにくい。学校帰りに使えるようにして欲しいです。

学童保育の支援員も恵那に流出しています。中津川市も力を入れてくれていますが、支援員も待遇の条件が良い方へ流れています。

●〇〇さん

小学生は、苗木交流センターには家に帰ってから遊びに行くことになっているので、小学校から遠い地域の子は遊びに行けません。小学生が学校帰りに交流センターに行けるようにして欲しいです。

以前住んでいた小牧市では、児童館の大きいものがありました。大きい子から小さい子まで同じ建物で遊んだり、弁当食べたりできたので、1つにまとまった施設があれば、安心できて楽しいのではないかと

思います。

●〇〇さん

移住してきた新婚夫婦の支援制度として、移住者向け住宅がありますが、すでに中津川市に住んでいる人の支援制度も使えるといいと思います。

●〇〇さん

新婚さんの家賃補助制度は中津川市民も使えます。家賃4万円以上の物件が条件ですが、転入者でも市内に住んでいる方でも制度を利用できます。

●〇〇さん

結婚して中津川市に来ましたが、買い物するところが少なく、毎週末、市外や県外に行っています。市内に大きい施設があれば、人も集まってきて、雇用も増えると思います。スターバックスやGUが恵那にできるようで、今の社宅に住んでなかったら恵那に住むか迷ったと思います。

また、主人も私も実家が県外なので、子どもができたときに、こちらに頼れる人がいないのでその支援があるのかが不安です。

●市長

褒めていただけたところ、まだまだ足りないところ話していただきました。施設の活用、子育て、まちの魅力の話題をいただきました。

中津川市は1市7町村が合併して14年経ち、1つのまちとしての流れができてきました。中心市街地を活用できる人は良いけれど、遠い方々にとっては「距離の壁」があります。また、生まれ育った地域への想いがあり、一緒になることで良さが消えてしまうのではといった「思いの壁」があります。そのような壁ができてしまうものの代表が小中学校の統廃合であり、誰のための統廃合かをしっかり意識して取り組んでいきたいと思います。

3点目は、「損得の壁」です。自分の住んでいる地域には、施設がないという意見がありますが、そういった想いが「損得の壁」として現れてきます。なぜそれが必要か、なぜできないかという理解をしながら、進めていく必要があります。そもそもなぜ合併したかという話になってしまいます。国が従来のように全ての地域を支援していくことができなくなったので、合併すれば10年間は特別に支援しますというものでした。中津川市は琵琶湖の面積と同じ大変広い面積です。そのなかで同じものはできないが、新しいまちとしての統一感、市民の皆さんに同じ中津川市という気持ちを持っていただく。「損得の壁」や、「思いの壁」を乗り越えるために、それに取って代わるものは何か、といったことをこれからの施策の中で配慮して取り組んでいかなければならないと思っています。

今悩ましいのが、学校の統廃合についてです。瑞浪市は学校をどんどん統廃合しています。統廃合を行う上でどんな手段を使ったかという、中学校・高校でのクラブ活動です。私も中津川市の行事の中でもブラスバンドなどの音楽フェスティバルが好きで、若いうちにやっておけば良かったと思っています。新しいことに触れる楽しさを覚えるチャンスは、人数が少ないと減ってしまいます。スポーツなどは出会いが才能を目覚めさせます。どこかで才能が芽生える機会の入り口はクラブ活動がきっかけになり、

それには子どもの人数が必要だと思えます。将来的に誰のためにどうあるべきかを考えていかなければと思っています。半面少人数の方が指導は丁寧になるという考え方もありますが、何を優先するかを大切に考えていきたいと思っています。

もう1つは、「制度（行政）の壁」です。制度上越えることができないことも多くあり、その上に生活環境が作られています。同時にこれを片付けようとするのは無理です。そのため、スポットを当てた壁から取り組んでいくこととなります。「思いの壁」は理解できるが、「距離の壁」では解決できないこともあると思います。例えば物理的に距離を縮小することは無理なので、少しでも時間を短縮できるようにする。壁は取り払えないが、避けることはできるという思いで事業を行なっています。ただ、これには時間がかかってしまうこともたくさんあります。

苗木交流センターが学校帰りに使っていけないことは知りませんでしたので、検討材料とさせていただきます。

国道257号は危ないので、公安委員会にも話をさせていただいていますが、「制度の壁」があり、たくさん信号を設置すればそれで良いのかという問題もあります。時間はかかりますが、公安委員会も地域の実情に理解を示してくれています。例えば、追分の市民病院への右折信号も警察が動いてくれています。一つ一つ解決していけばと思っています。

まちの魅力についてですが、アピタという大型店舗ができた時代には、恵那市の方にもたくさん利用していただいたのですが、地主の方達が組合を立ち上げ、お互いが協力して開発をして、店舗ができました。民間の力が集結してそれに行政が支援して完成したのです。行政だけが動いても駅前開発は難しい。地権者の方やお店の方の支援・協力が必要です。リニアの駅周辺は21.6ヘクタールの区画整理事業を行います。県との連携でにぎわいを作ろうということで進めています。しかし、今の中津川駅周辺に人が集まらないということになってしまわないよう、中津川市はJR駅前を中心市街地としてまちづくりを行なっていきます。施設を作成する際には、まず子育てを中心とした方たちのためのものを入れながら作っていきます。そのために市の組織に若手職員を入れてプロジェクトとして内容の検討をしています。大型商業施設については、アピタが撤退するときに、継続の要望に大阪まで行き、継続が無理でも、物流基地や資材置き場にするのはやめて欲しいとお願いしました。ルビットタウンは東京の資本が入って経営をしており、ニトリも入っています。子ども用品を扱うということはお母さんたちにとって重要だということでベビー服専門店を入れる要望をしましたが、できないと言われたのが残念でした。西松屋さんや赤ちゃん本舗さんにもお願いしましたが、難しいと言われました。しかし、リニアによる賑わいができるなかで、大型店舗が来る可能性もあります。市外に出かけた折など機会があるときに、赤ちゃん用品の店の話も出して一生懸命プッシュしている状況です。

リニアが中津川市にくることが決まった頃は、地元から夢の話ばかりいただいたが、まずは「距離の壁」を低くしようということで進めてきました。それは概ねできてきました。これからは具体的な魅力づくりです。しっかり県や国と相談して進めていきます。皆さんからも中津川は素晴らしいと言ってほしい。

また、安心できる公園が少ないのはそのとおりです。小さな子どもさんが目を離したすきに心配があるとか、遊具があると良いという話で解釈して良いですか。

●定住推進部長

阿木については、近々、阿木の交流センターの起工式がありますが、地元の要望があり、交流センターの敷地内で小さな子どもが寄り道できる施設になる予定です。

●〇〇さん

特別支援学級は各学校にあります。小学校での発達障害の対応については、通級学級が限られた小学校しかない。親の責任で送り迎えしないといけません。そのため、仕事の都合で利用できないということも出てきます。通級学級は発達障がいの子のために大事なものです。個人や家庭に委ねられている状態です。どこに住んでいる子も同じような支援が受けられると良いと思います。

スクールカウンセラーや臨床心理士も、何年間も通して発達を見ていく必要があるが、子どもが心を開く環境ができるまで深く関わることはできません。また、市内に診断できる病院がなく、必要な子は名古屋まで通っていて、予約を取るだけで何カ月もかかり、お母さんの負担になっています。最近、発達障害の注目が高く、「つくしんぼ」も良い施設で先生も信頼できますが、小学校に上がってから心配になる子どもに出会ったときに、気軽に市内で診断が受けられる環境が整うと良いと思います。

●市長

介護などいろいろな分野でグレーゾーンがあります。どこまで地方自治体でできるかというところもあります。国に要望しながら、時間をかけて進めていくこととなります。そんななか、病児保育はようやく運営可能な体制が整い、2019年4月から市民病院にできます。

●〇〇さん

坂下病院はどうなりますか。小児科にかかるのに、坂下病院がなくなると市民病院まで行かないといけなくなり、時間がかかります。そのあと保育園に連れていくことが困難になって困ります。

●市長

両方の病院を維持していくことできるかという議論は合併前からありましたが、結論は出ていませんでした。医療制度も変わり、大学病院があまり医師を提供してくれなくなって医師が減ることになりました。名古屋大学は以前から坂下病院には医師は出さないと言っていて、アルバイト的に非常勤でお願いしている状況です。継続したくてもできないのが現状です。

総合病院で出産すると、緊急のときに他の科があることで機能が整っているので、安心して出産できます。病院の充実には医師の連携がしっかりできてこそです。

坂下病院については、来週あたりに方向性を出さないといけません。医師を確保できる外来は続けていきたいと思っており、現実的には常勤内科医が3人いますので、それは続けていきます。関係する小児科もできますので、あとは、整形外科、眼科ができるかどうかというところです。

私たちは坂下病院をなくすとは言っておらず、これまで通りとはいかないが、これからも継続して地域医療を続けていくために、医師を苦勞して確保しています。また、1人は開業医として地元で開業していただいています。小児科は市民病院の医師の力も借ります。

名古屋大学は市民病院には医師を派遣すると言っていますが、そこから坂下病院へ派遣させるとなる

と、医師が余っていると言われてしまいます。そんな中で将来の医療体制をとっていかなければならないのです。土岐市民病院は医師が確保できなくなってやめました。瑞浪市の厚生病院と一緒にする計画で進んでいます。医師を派遣されずに終焉したということが近くで起きています。それも判断していかなければならない材料です。

●市長

今日いただいた課題は事業計画の中で位置付けてしっかり対応していきたいと思います。自助（自分でできること）、共助（皆さんと一緒にやっていくこと）、公助（市が享受できること）と言われていますが、これからは共助が強くなってくるので、皆さんも地域で今日の話をしていただいて、私の想いも伝えていただけたらと思います。住みやすいまちづくりと一緒にさせていただきたいと思います。本日はありがとうございました。